

スーパーマーケット販売統計調査資料

2026年5月実績 速報版

4月実績 確報版

(2026年6月23日公表)

調査資料概要

【パネル 270 社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版：前月販売実績を速報値として公表 確報版：速報値に精度の高い集計を加え確報値として公表

【全店・既存店】

全店：前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較 既存店：前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮三部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜		惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インスタアベーカー、ファーストフード
		日配		豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム
		一般食品		調味料、瓶詰詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類
		非食品		日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具
その他		テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)		

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城。山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州地方・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄
北日本日本海側	北海道の日本海側とオホーツク海側（宗谷南部）、東北日本海側
太平洋側	北海道の太平洋側とオホーツク海側（網走・北見・紋別地方）、東北太平洋側
東日本日本海側	北陸地方
太平洋側	関東甲信、東海地方
西日本日本海側	近畿日本海側、山陰、九州北部地方
太平洋側	近畿太平洋側、山陽、四国、九州南部
沖縄・奄美	鹿児島県奄美地方、沖縄地方

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2026年6月23日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2026年5月実績 速報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	116,055,734	100.0%	104.4%	103.2%
食品合計	106,645,830	91.9%	104.3%	103.0%
生鮮3部門合計	38,976,095	33.6%	105.8%	104.3%
青果	15,798,483	13.6%	105.0%	103.7%
水産	9,714,156	8.4%	107.3%	105.6%
畜産	13,463,457	11.6%	105.7%	104.0%
惣菜	13,425,388	11.6%	106.3%	104.7%
日配	23,640,061	20.4%	104.2%	102.9%
一般食品	30,604,286	26.4%	101.7%	100.7%
非食品	6,786,471	5.8%	107.4%	106.5%
その他	2,623,468	2.3%	102.3%	101.6%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	15,242,157	43	103.7%	103.1%
関東地方	42,345,947	73	105.5%	103.8%
中部地方	14,070,614	53	104.1%	102.7%
近畿地方	27,095,049	44	102.6%	101.9%
中国・四国地方	11,708,772	34	104.8%	103.3%
九州・沖縄地方	5,593,196	23	106.2%	104.9%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	557,170	46	102.3%	102.3%
4~10店舗	4,789,758	84	102.1%	102.3%
11~25店舗	8,925,147	48	104.7%	104.3%
26~50店舗	20,038,579	46	103.9%	103.0%
51店舗以上	81,745,081	46	104.6%	103.1%

集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	114,272,990
総店舗数 (店舗)	8,608	店舗平均月商 (万円)	13,482
総売場面積 (㎡)	14,406,880	売場1㎡あたり売上高 (万円)	8.1

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2026年6月23日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2026年4月実績 確報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	110,817,679	100.0%	102.1%	100.9%
食品合計	102,056,303	92.1%	102.1%	100.7%
生鮮3部門合計	37,135,606	33.5%	102.8%	101.4%
青果	15,135,924	13.7%	100.4%	99.2%
水産	9,110,956	8.2%	103.6%	102.2%
畜産	12,888,726	11.6%	105.1%	103.5%
惣菜	12,592,413	11.4%	103.3%	101.8%
日配	22,563,344	20.4%	102.2%	100.6%
一般食品	29,764,940	26.9%	100.7%	99.5%
非食品	6,322,232	5.7%	104.8%	103.9%
その他	2,439,184	2.2%	99.5%	99.1%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	14,330,907	43	101.6%	101.1%
関東地方	40,521,286	73	103.1%	101.6%
中部地方	13,261,759	53	102.1%	101.2%
近畿地方	26,279,093	44	100.5%	99.2%
中国・四国地方	11,121,802	34	101.5%	99.5%
九州・沖縄地方	5,302,832	23	103.2%	102.3%

保有店舗数別集計

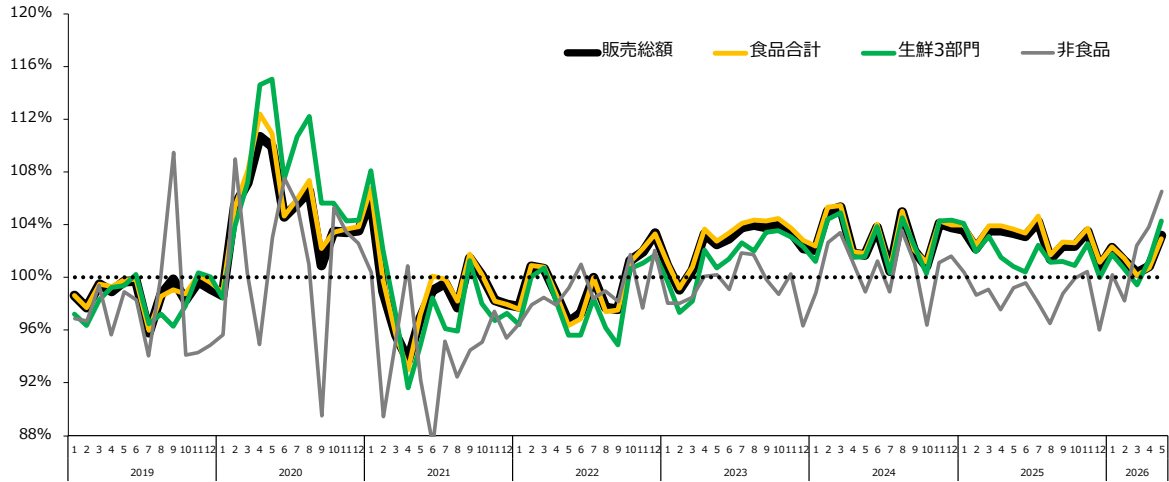
保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	522,106	46	97.7%	97.7%
4~10店舗	4,530,980	84	98.6%	99.3%
11~25店舗	8,494,373	48	101.8%	101.5%
26~50店舗	18,998,677	46	102.0%	100.9%
51店舗以上	78,271,543	46	102.4%	100.9%
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	109,071,123	
総店舗数 (店舗)	8,542	店舗平均月商 (万円)	12,973	
総売場面積 (㎡)	14,323,058	売場1㎡あたり売上高 (万円)	7.7	

※売上高は税抜金額

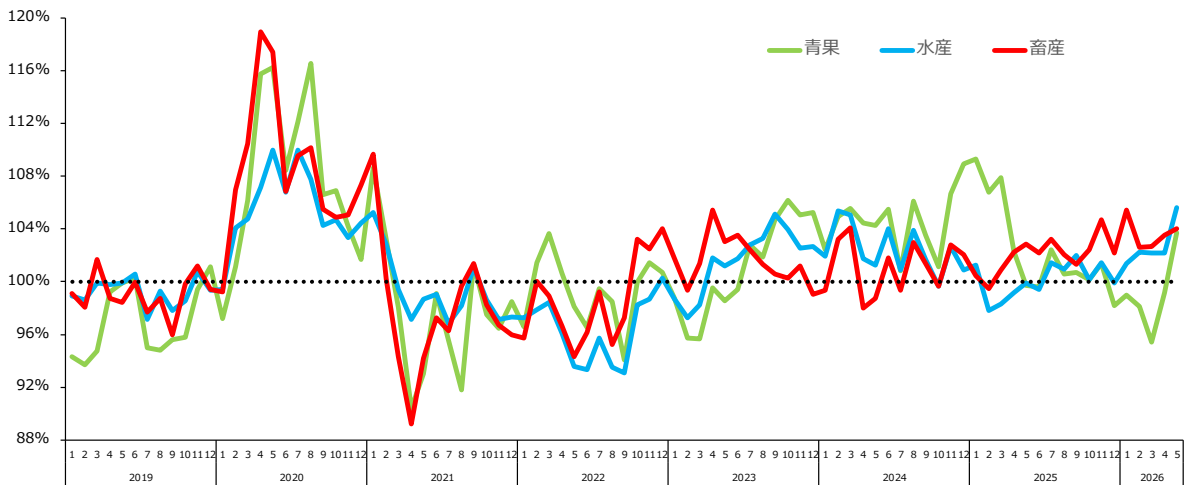
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

スーパーマーケット販売統計調査 前年同月比（既存店）推移 2019年1月～

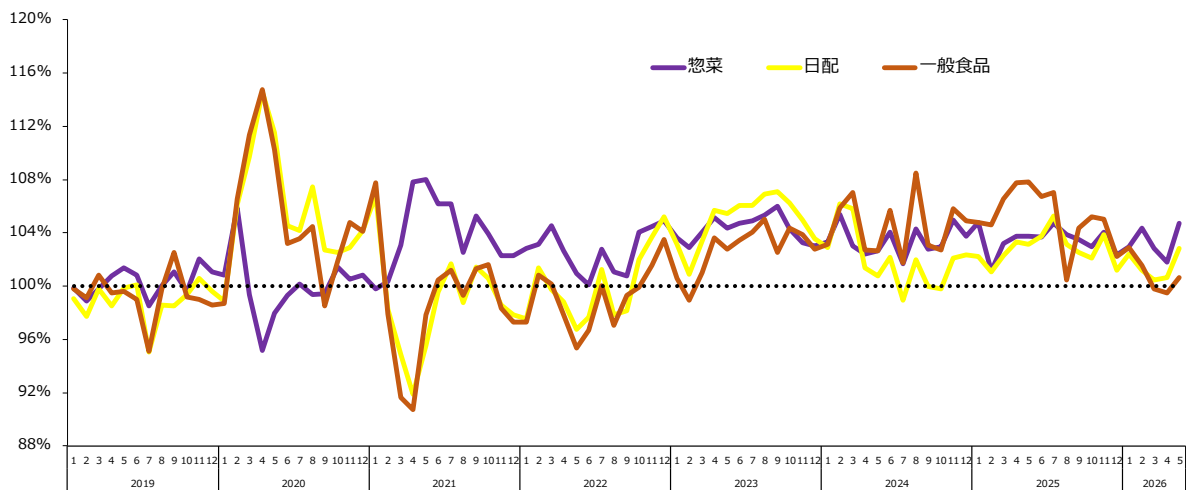
総売上高・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2026年5月実績は速報版

2026年5月 エリア別気候状況

5月の気温：北・東・西日本でかなり高かった

上旬：北日本、東日本では高かった。

中旬：北日本、東日本、西日本ではかなり高かった。

下旬：東日本、西日本ではかなり高かった。北日本では高かった。

2025年5月との比較：下旬は東・西日本を中心にかなり高い気温となった

	平年との比較 (°C)						今年と前年との差 (°C)		
	2026年5月 (今年)			2025年5月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	1.4	2.2	1.2	1.1	2.8	-0.3	0.3	-0.6	1.5
太平洋側	2.1	2.0	1.0	0.9	3.2	-0.2	1.2	-1.2	1.2
東日本 日本海側	0.3	2.5	2.4	-0.4	2.4	-0.8	0.7	0.1	3.2
太平洋側	0.8	2.3	1.6	-0.3	2.1	-0.4	1.1	0.2	2.0
西日本 日本海側	-0.5	2.3	2.8	-0.9	1.4	-1.0	0.4	0.9	3.8
太平洋側	-0.6	2.0	2.5	-0.8	1.1	-0.3	0.2	0.9	2.8

平年差

+2°C以上
+1°C以上

-2°C以上
-1°C以上

前年差

+2°C以上
+1°C以上

-2°C以上
-1°C以上

5月の日照時間：東・西日本日本海側でかなり多く、北日本日本海側と北・東・西日本太平洋側で多かった

上旬：北日本太平洋側、東日本日本海側、西日本では多かった。

中旬：北日本、東日本、西日本ではかなり多かった。

下旬：東日本太平洋側、西日本では少なかった。

2025年5月との比較：中旬は東・西日本を中心にかなり多い日照時間となった

	日照時間 平年比 (%)						今年と前年との差		
	2026年5月 (今年)			2025年5月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	99	138	98	108	101	98	-9	37	0
太平洋側	112	137	107	104	112	89	8	25	18
東日本 日本海側	111	171	96	103	101	77	8	70	19
太平洋側	109	173	87	100	95	44	9	78	43
西日本 日本海側	133	166	93	115	92	78	18	74	15
太平洋側	112	166	88	112	87	64	0	79	24

平年差

平年比150%以上
平年比125%~149%

平年比50%以下
平年比51%~75%

前年差

+50%以上
+25~49%

-50%以下
-25~-49%

5月の降水量：東・西日本太平洋側と西日本日本海側で少なかった一方、北・東日本日本海側では多かった

上旬：北日本ではかなり多かった。東日本では多かった。西日本では平年並だった。

中旬：北日本、東日本、西日本ではかなり少なかった。

下旬：北日本日本海側、東日本日本海側ではかなり多かった。西日本太平洋側では多かった。

2025年5月との比較：上旬北日本で多かった他は、西日本を中心にかなり少ない降水量となった

	降水量 平年比 (%)						今年と前年との差		
	2026年5月 (今年)			2025年5月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	199	16	160	87	51	138	112	-35	22
太平洋側	225	10	93	145	56	134	80	-46	-41
東日本 日本海側	153	2	209	134	49	108	19	-47	101
太平洋側	165	11	73	258	74	145	-93	-63	-72
西日本 日本海側	88	9	78	188	54	228	-100	-45	-150
太平洋側	79	15	107	202	65	194	-123	-50	-87

平年差

平年比150%以上
平年比125%~149%

平年比50%以下
平年比51%~75%

前年差

+50%以上
+25~49%

-50%以下
-25~-49%

気象庁ホームページ「2026年5月の気候」を参考に事務局作成

スーパーマーケット景気動向調査

2026年6月調査結果（5月実績）
（2026年6月23日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

6月調査（5月実績）結果概況

景況感は現状判断、見通し判断ともに改善

5月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DIの現状判断は、前月から+3.9の47.1となり改善した。見通し判断も前月から+2.3の41.9となったものの、引き続き50を下回る水準で推移している。

経営動向調査では、売上高DIは前月から大きく上昇し、プラス圏へ転じた。収益DIも上昇しプラス圏を回復している。来客数DIは引き続きマイナス圏で推移しているものの、マイナス幅は縮小した。客単価DIは前月から上昇し、各仕入原価DIも前月を上回った。

カテゴリー動向調査では、青果は相場安の緩和により前月の大幅マイナス圏から改善し、プラス圏へ転じた。水産、惣菜、非食品は二桁のプラスとなり、畜産、日配もプラス圏で推移した。一方、一般食品は前年の備蓄米放出による特需の反動もあり前月から改善も、引き続きマイナス圏で推移した。（カテゴリー別動向に詳細掲載）

景況感調査では、現状判断、見通し判断、ともに改善した。消費者購買意欲DIも小幅に改善したが、価格上昇の継続や生活防衛意識の高まりから、消費マインドの慎重さはしばらく継続するものとみられる。（長期傾向はP11参照）

5月は気温上昇や、前年より日曜りと祝日がそれぞれ1日多い曜日めぐりも売上を押し上げ、行楽需要、飲料や涼味など季節商品の動きが強まった。一方で、前年の備蓄米放出の反動が続き、コメ関連では伸び悩みがみられた。中東情勢やナフサ関連報道の影響から、ゴミ袋、ラップなど生活必需品の買い置き需要も継続した。価格上昇を背景に、節約志向や生活防衛意識は引き続き強く、利益確保が難しい局面が続いている。

景況感調査

現状判断

景気判断DI
当月：47.1 (+3.9)
前月：43.2

消費者購買意欲DI
当月：44.6 (+1.2)
前月：43.4

周辺地域 競合状況DI
当月：41.7 (+0.3)
前月：41.4

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：44.4 (+0.9)
前月：43.5

見通し判断

景気判断DI
当月：41.9 (+2.3)
前月：39.6

消費者購買意欲DI
当月：41.5 (+0.3)
前月：41.2

周辺地域 競合状況DI
当月：40.5 (-0.2)
前月：40.7

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：41.5 (-0.9)
前月：42.4

経営動向調査 経営状況

売上高DI
当月：8.3 (+13.4)
前月：-5.1

客単価DI
当月：13.8 (+6.5)
前月：7.3

来客数DI
当月：-4.3 (+7.0)
前月：-11.3

収益DI
当月：3.2 (+9.4)
前月：-6.2

販売価格DI
当月：18.5 (+1.1)
前月：17.4

生鮮品仕入原価DI
当月：18.9 (+4.4)
前月：14.5

食品仕入原価DI
当月：20.8 (+4.9)
前月：16.6

カテゴリー動向

青果DI
当月：5.9 (+21.9)
前月：-16.0

水産DI
当月：12.8 (+10.1)
前月：2.7

畜産DI
当月：8.2 (+2.3)
前月：5.9

惣菜DI
当月：12.6 (+6.4)
前月：6.2

日配DI
当月：5.9 (+10.0)
前月：-4.1

一般食品DI
当月：-1.3 (+8.5)
前月：-9.8

非食品DI
当月：12.6 (+6.1)
前月：6.5

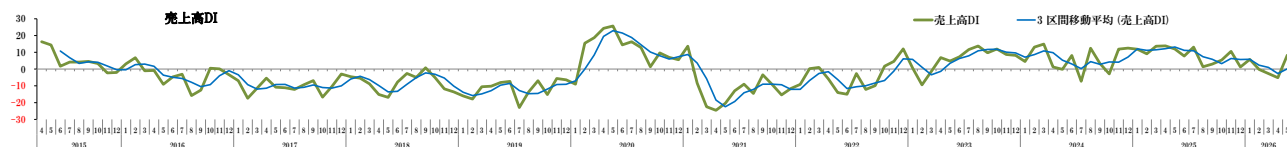
※DI値は前年同月との比較／○内は前月DIからの変化

結果詳細 I. 経営動向調査 (2015年4月～)

1. 売上高DI

前月から上昇、3か月ぶりにプラス圏を回復

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	4.6	37.1	33.1	24.5	0.7	-5.1
売上高 (当月)	3.3	15.7	32.2	42.1	6.6	8.3



2. 収益DI

前月から上昇、3か月ぶりにプラス圏を回復

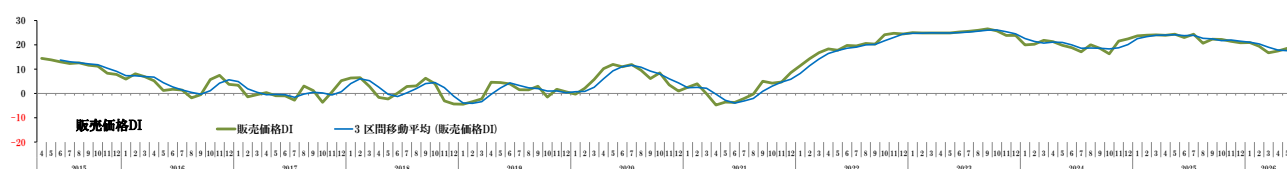
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	7.4	36.2	32.9	20.8	2.7	-6.2
収益 (当月)	5.9	22.0	31.4	34.7	5.9	3.2



3. 販売価格DI

前月水準で推移、二桁プラス域

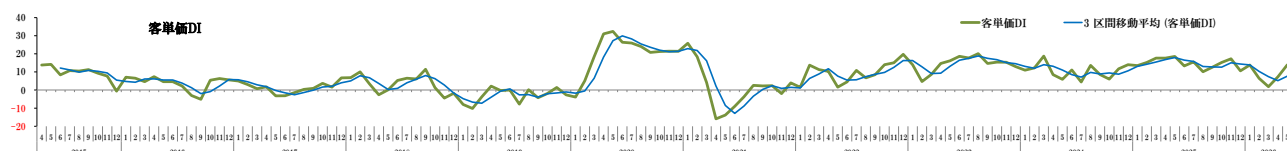
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.0	2.7	28.9	64.4	4.0	17.4
販売価格 (当月)	0.8	0.8	25.0	70.0	3.3	18.5



4. 客単価DI

前月から上昇、二桁プラス圏

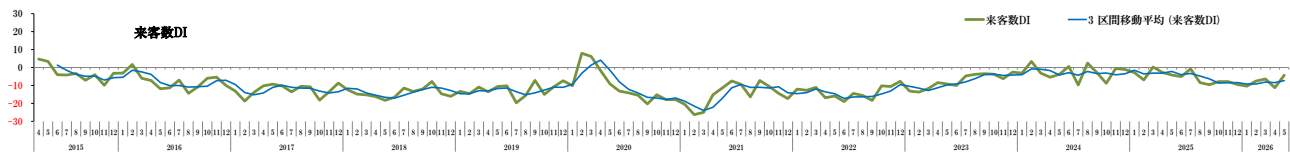
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	0.7	13.2	43.7	41.1	1.3	7.3
客単価 (当月)	0.8	5.0	33.9	58.7	1.7	13.8



5. 来客数 DI

前月から上昇、マイナス幅を縮小

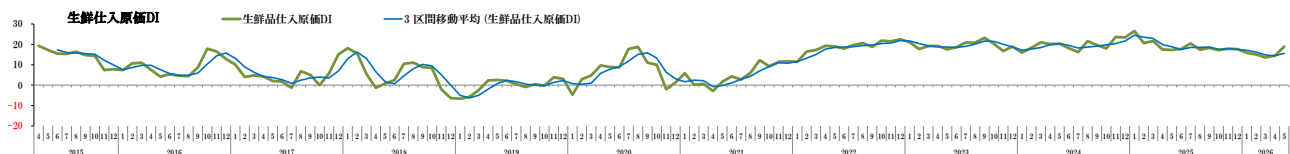
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	6.0	47.7	31.8	14.6	0.0	-11.3
来客数 (当月)	5.0	35.5	32.2	26.4	0.8	-4.3



6. 生鮮仕入原価 DI

前月から上昇、二桁プラス域で推移

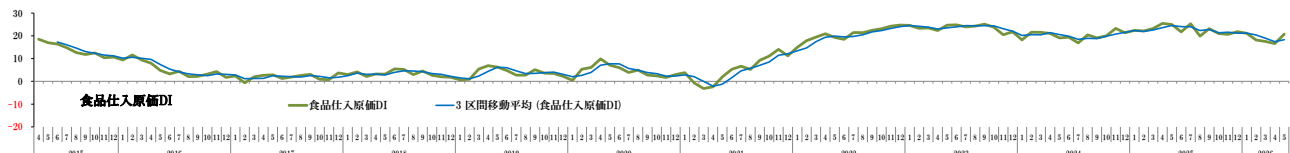
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	1.4	9.0	26.9	55.9	6.9	14.5
生鮮仕入原価 (当月)	0.0	3.5	26.3	61.4	8.8	18.9



7. 食品仕入原価 DI

前月から上昇、61 か月連続プラス圏

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	2.7	8.2	17.8	62.3	8.9	16.6
食品仕入原価 (当月)	0.9	4.4	17.7	64.6	12.4	20.8

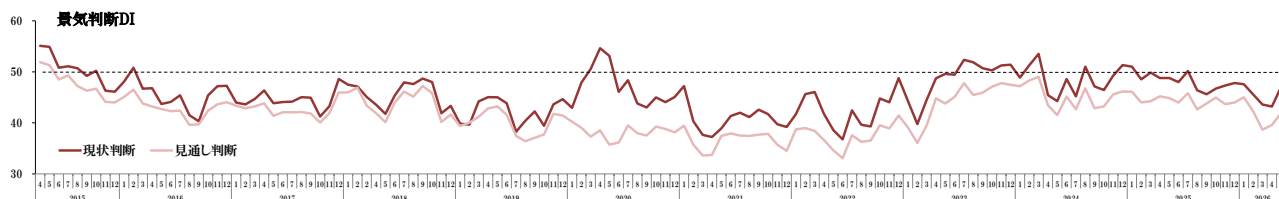


II. 景況感調査 (2015年4月～)

1. 中核店舗景気判断 DI

現状判断は大幅な改善、見通し判断も40台を回復

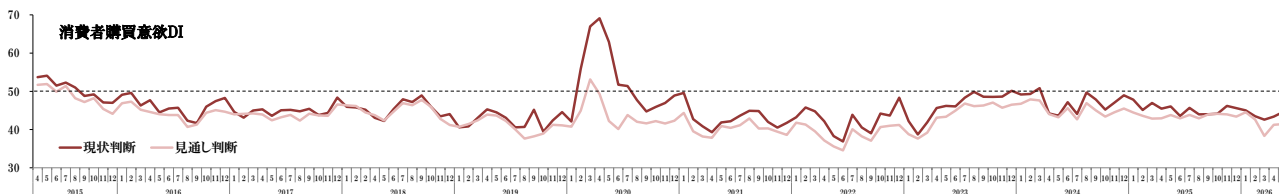
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断 (前月)	2.0	29.1	62.9	6.0	0.0	43.2
【現状】景気判断 (当月)	0.0	24.8	62.8	11.6	0.8	47.1
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断 (前月)	4.0	40.4	49.7	5.3	0.7	39.6
【見通し】景気判断 (当月)	2.5	33.9	57.0	6.6	0.0	41.9



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断は小幅に改善、見通し判断は前月水準

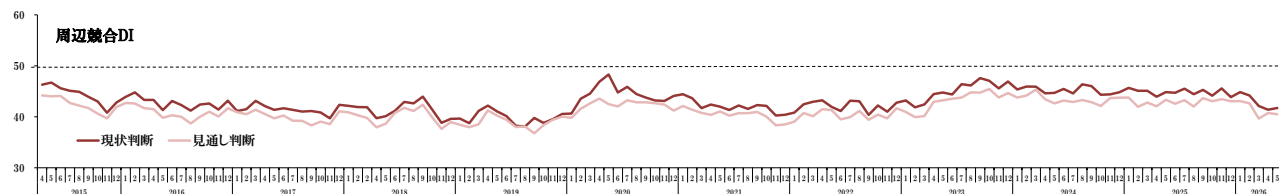
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	1.3	31.1	60.3	7.3	0.0	43.4
【現状】購買意欲 (当月)	0.8	28.3	62.5	8.3	0.0	44.6
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	2.6	39.1	49.7	7.9	0.7	41.2
【見通し】購買意欲 (当月)	2.5	37.5	51.7	8.3	0.0	41.5



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断、見通し判断共に前月水準で推移

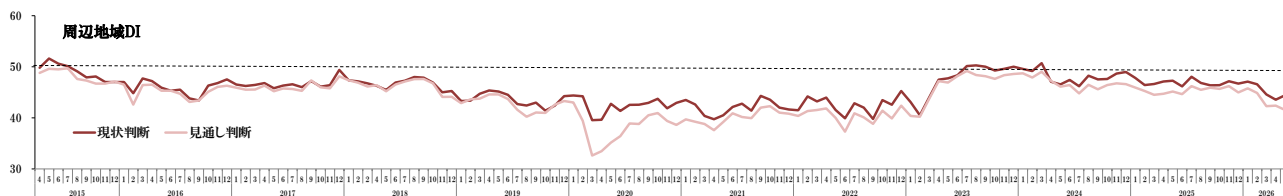
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	4.6	25.8	68.9	0.7	0.0	41.4
【現状】競合状況 (当月)	5.0	24.0	70.2	0.8	0.0	41.7
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	5.3	28.5	64.2	2.0	0.0	40.7
【見通し】競合状況 (当月)	5.0	29.8	63.6	1.7	0.0	40.5



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状判断は小幅に改善、見通し判断は小幅に悪化

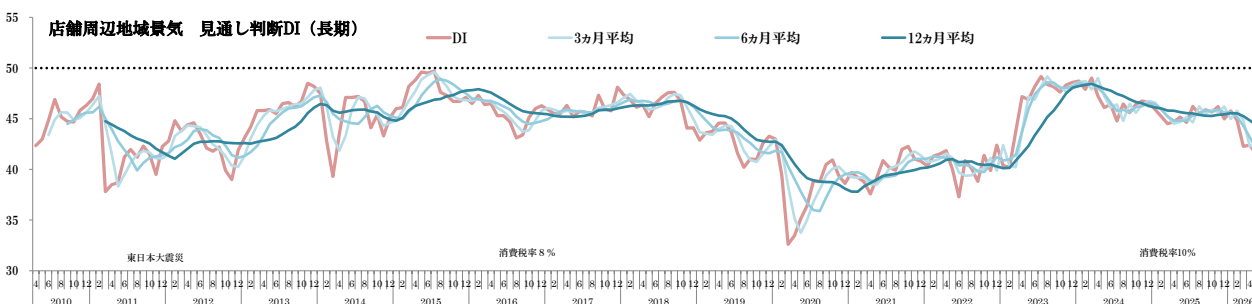
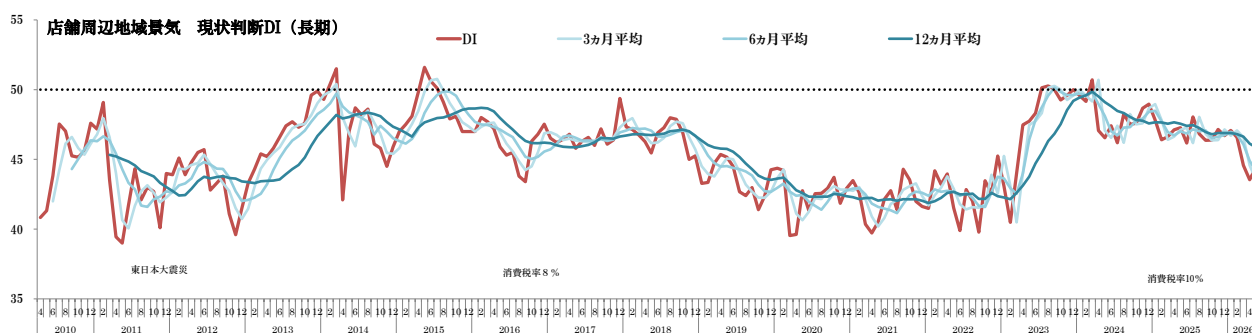
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気(前月)	0.7	26.5	70.9	2.0	0.0	43.5
【現状】地域景気(当月)	2.5	20.7	73.6	3.3	0.0	44.4
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気(前月)	1.3	31.1	64.2	3.3	0.0	42.4
【見通し】地域景気(当月)	4.1	28.1	65.3	2.5	0.0	41.5



・中核店舗周辺地域景気判断DI 長期傾向 (2010年4月～)

周辺地域景気判断DIは2011年3月の東日本大震災以降低迷を続けたが、12年11月から16カ月にわたる改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。14年4月の消費税率8%への引き上げにより大幅に悪化したものの、その後は徐々に持ち直し、15年5月には現状判断DIが51.6に達し、調査開始以来の最高値を更新した。その後、15カ月間にわたり悪化傾向が続き、16年9月には現状判断DIが43.4まで低下した。

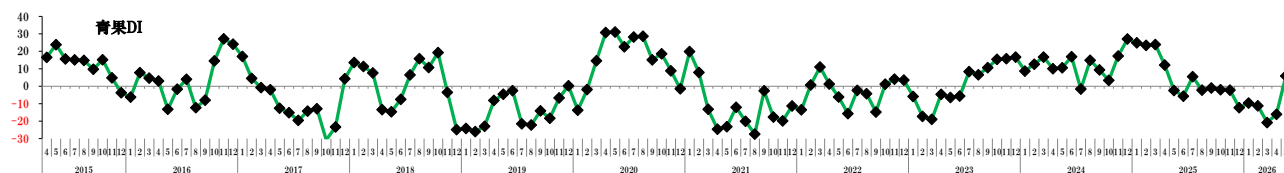
以後は方向感の乏しい推移が続いたが、18年後半から悪化傾向が顕著となり、19年7月には現状判断DIが42.3まで低下した。21年は感染状況により上下する動きとなった。22年は、感染が再拡大した7月以降に大幅な改善をみせた。23年も改善が続き、7月には判断の分かれ目である50を突破し、その後も高水準を維持した。24年前半に悪化したものの、後半は緩やかな改善傾向が続いた。25年に入ると現状判断DI、見通し判断DIともに低下基調へ転じ、23～24年にみられた50近辺の水準から徐々に乖離した。26年に入っても改善局面への回帰は確認されず、足元では現状判断DIは40台半ば、見通し判断DIは40前後の水準で推移している。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果 DI：5.9（やや好調）

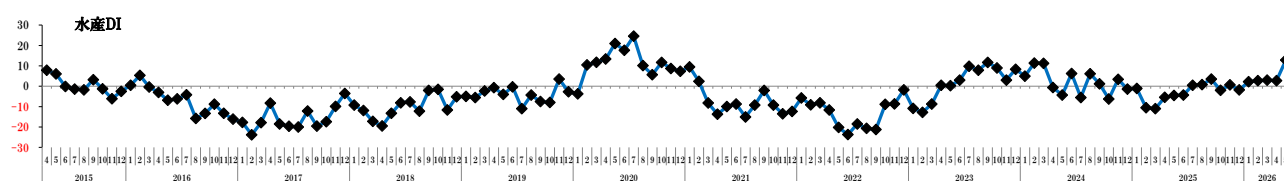
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	19.3	40.0	26.9	13.1	0.7	-16.0
青果（当月）	5.2	20.0	26.1	43.5	5.2	5.9



前年の相場高からの反動による相場安が落ち着きはじめプラスに転じた。野菜では、気温上昇によりトマトやきゅうりなどのサラダ商材が好調に推移したほか、新たまねぎ、じゃがいもなどの土物類やアスパラガスなどの季節商材も堅調であった。果物では、スイカ、キウイ、国産柑橘類などが好調に推移し、輸入果実やカットフルーツも売上に寄与した。一方で、りんご、オレンジ、ぶどうなどは店舗により好不調が分かれた。

2. 水産 DI：12.8（好調）

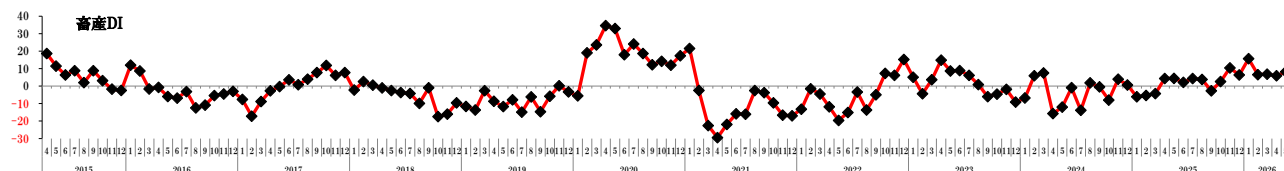
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	7.5	17.8	36.3	32.9	5.5	2.7
水産（当月）	3.5	15.7	20.0	47.8	13.0	12.8



かつおは水揚げが安定し、多くの店舗で売上を牽引したほか、あじ、しらすなども堅調であった。GW 期間や母の日需要を背景に、刺身、お造り、寿司類の動きも良く、うなぎは値ごろ感のある価格帯で販売が伸長した。塩鮭や加工魚など塩干カテゴリーも好調に推移し、全体を下支えた。一方で、養殖魚やサーモンなど輸入魚などでは高値での推移が続いており、利益確保に苦慮する声もみられた。

3. 畜産 DI：8.2（やや好調）

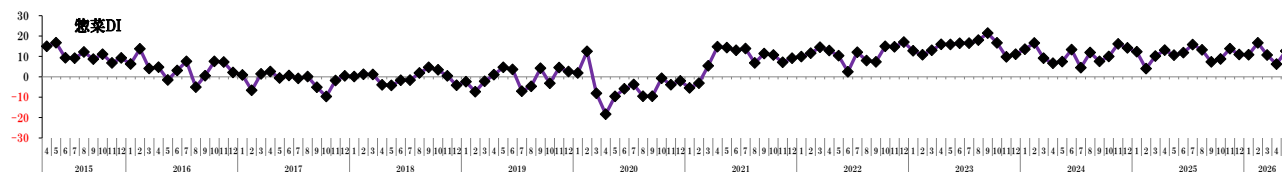
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	4.2	16.7	36.1	37.5	5.6	5.9
畜産（当月）	5.3	13.3	32.7	40.7	8.0	8.2



引き続き価格上昇を背景に、鶏肉や挽肉、切落しなど比較的値頃感のある商品への需要シフトがみられた。GW 需要を背景に焼肉・ステーキ用も売上に寄与。豚肉では冷しゃぶ用や切落し、鶏肉ではモモ・ムネなどの定番部位が好調。味付肉や簡便商材も好調となった。一方で、牛・豚・鶏の各畜種で相場高が続いており、利益確保に苦慮する声もみられた。加工肉はハム・ベーコン・ソーセージ類を中心に伸び悩んだ。

4. 惣菜DI：12.6（好調）

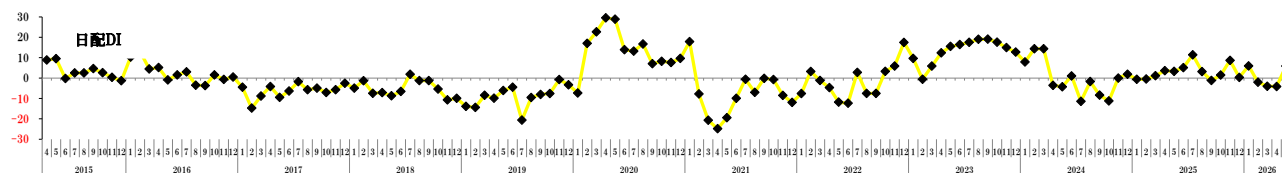
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	1.4	20.0	35.2	39.3	4.1	6.2
惣菜（当月）	2.6	10.4	30.4	47.0	9.6	12.6



GW や母の日需要、行楽需要を取り込み、引き続き堅調に推移した。寿司類、弁当・丼物などの米飯類も売上を牽引した。唐揚げ、フライ、焼物などの温惣菜も堅調で、値頃感のある商品や即食性の高い商品が支持された。気温上昇により麺類や麺セットなどの涼味商材も動きがみられた。一方で、天ぷら、和惣菜は好不調が分かれ、青果相場の落ち着きによりサラダもやや鈍化傾向に。包装資材や原材料の価格上昇により、利益確保に苦慮する声もみられた。

5. 日配DI：5.9（やや好調）

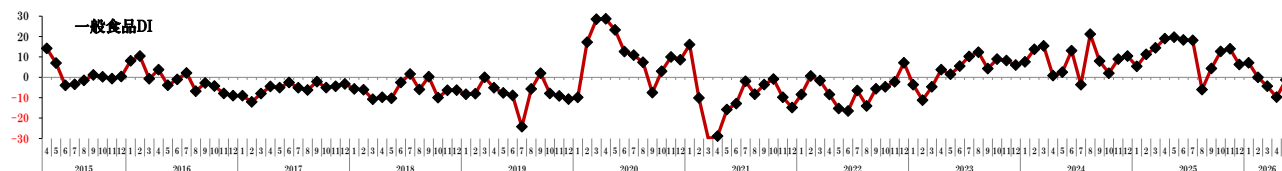
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	2.8	33.8	42.1	20.0	1.4	-4.1
日配（当月）	1.7	16.5	46.1	27.8	7.8	5.9



価格改定による一品単価上昇が続き、気温上昇を背景にアイス、チルド麺、ところてんなど涼味商材が好調に推移。洋日配ではヨーグルトや乳製品、冷凍食品などが堅調。和日配では納豆、たまご、豆腐などの日常使いの商品が売上を支えた。一方で、パン類は前年のコメ代替需要からの反動もあり伸び悩みがみられた。漬物や練製品なども苦戦が続く。買上点数や客数減少を指摘する声もみられ、節約志向の強さがうかがえる。

6. 一般食品：-1.3（やや不調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	12.3	39.7	26.0	18.5	3.4	-9.8
一般食品（当月）	9.6	28.7	29.6	21.7	10.4	-1.3



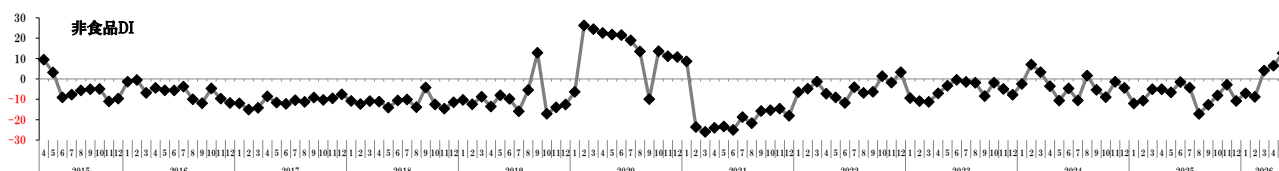
前年の備蓄米放出需要からの反動がみられた。気温上昇に伴い、飲料や乾麺などの涼味、季節商材が好調に推移した。お茶、麦茶、炭酸飲料、ミネラルウォーターなどに加え、そうめん、冷麦、めんつゆなど夏向け商品が売上を牽引した。コーヒーなどの嗜好品は引き続き堅調で、酢、焼肉のたれ、みりんなど調味料類にも動きがみられた。酒類ではビールやノンアルコール飲料が好調との声がみられた。一方で、前年コメ代替需要のあったインスタント麺や乾物類、一部菓子類は伸び悩みがみられ、カテゴリー間で差が出た。

・米の動向

前年の備蓄米販売や米不足による特需の反動が大きく、苦戦する店舗が多くみられた。価格下落を受けて特売や低価格帯商品の展開を強化し、販売数量が回復した店舗もあった一方、売上高の確保にはつながりにくい状況となった。価格競争が再び強まる中、利益確保と単価維持の両立が課題となっている。

7. 非食品 DI：12.6（好調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	3.5	23.1	32.9	25.2	15.4	6.5
非食品（当月）	5.3	11.5	31.9	30.1	21.2	12.6



中東情勢を背景としたナフサ関連製品の供給不安や値上げ報道の影響から、ゴミ袋、ラップ、ポリ袋などの家庭用消耗品を中心に買い置き需要が続いた。自治体指定ごみ袋では品薄や欠品、納品の遅れを指摘する声もみられた。紙製品や一部洗剤類も堅調だったほか、気温上昇に伴い殺虫剤・防虫剤などの虫ケア用品、UV・制汗関連など季節商材の動きもみられた。一方で、シャンプーなどのヘアケア用品、衛生用品、化粧品などは伸び悩みがみられた。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調： ～ 20 好調： 20 ～ 10 やや好調： 10 ～ 0
やや不調： 0 ～ -10 不調： -10 ～ -20 かなり不調： -20～

2026年6月調査（5月実績）キーワード TOP3

1. 気温上昇
2. 前年の米特需反動
3. 日曜日・祝日が一回多い曜日めぐり

（参考）2025年6月調査（5月実績）キーワード TOP3

1. 米価格の高騰（食品値上げ）
2. 上旬と下旬の気温が前年よりやや低い
3. 土曜日が一回多い

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

5月実績速報版 120社
4月実績確報版 151社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp